

寺前城・村雨城(甲南町)

甲賀地域に築かれた郡中惣の城砦群は、どれも同じ形のように見えますが、よくみると城の構造に少しずつ違いが見られます。
この違いは、城の立地条件や領主の性格、また時代の流れによるものと考えられます。

甲賀での大きな出来事は、永禄8年(1565)の一乗院覺慶(後の將軍義昭)の甲賀亡命や永禄11年(1568)、近江の雄、六角義治の甲賀潜伏などがあげられるでしょう。

一乗院覺慶が亡命した甲賀和田谷では、和田川の両岸に沿って四つの城が集まり和田城砦群を形成しています。中でも和田城は方形の土塁を平たく成形し、高台部分を設けるなど、より先進的な城の特徴が見られます。

また、甲賀の望月氏を頼って逃避してきた六角義治が、一時潜伏していた甲南杉谷地域には、城の密度が高く、望月城には高い土塁に深い堀切、複郭や武者隠し状の曲輪を設け、より堅固な城へと防御性を高めています。

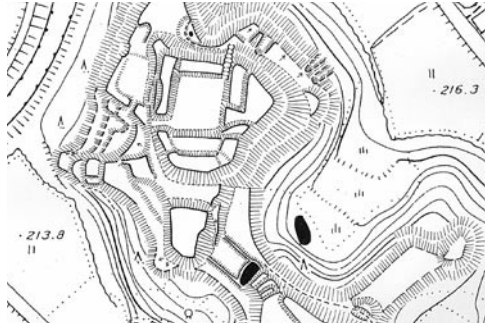
さらに新治の寺前城や新宮城などは進入路を複雑に屈曲させるなど、従来の単郭方形型からより進歩したタイプの城と考えられます。近江への信長の進軍を控えて、戦が日常化した緊張感が城の構造にも変化をもたらしたのででしょうか。

また、戦国時代後半頃の築城と考えられている甲賀上野城は、主郭だけでなく土塁が外へ伸び、さらにそれを屈曲させるなど意識的により大きな城につくろうとする城づくりの工夫が見られます。

一方、土山地域に目を移すと、土山城や黒川氏城に甲賀独自に発達した構造とは異なる馬出しを伴う織豊系の影響を見ることができるといえます。

信楽地域では、小川城に見られるように曲輪を尾根筋に築く普遍的な山城で、甲賀の方形城館とは構造的に異なり、甲賀の城館構造の中でも特異な存在といえるでしょう。

このように甲賀武士たちの性格や組織形態、時代の変化が城館構造にまで反映していることがわかり、甲賀の城からこの地域の戦国時代が語れるといっても過言ではありません。



▲和田城縄張図(甲賀町)[中井 均作図]

【問い合わせ】
文化財保護課
☎ 86-8026
FAX 86-8380

市史編纂さん委員会(瀬古一郎会長)は、去る3月14日第4回委員会を開き、新たに服部治男市議会議長を副会長に選任したほか、第1巻原始・古代編の刊行時期を当初計画より前倒して、平成19年12月とすることに決定しました。

また、市史編纂さんを円滑に推進するため、市内在住の22名の方を「市史編さん協力員」に委嘱し、第1回の会議を開催しました。

「身近な資料・情報で、内容をより豊かに、偏りのない」市史をめざし、主に情報提供についてご協力いただくもので、
①区・社寺・個人が保存する古文書
②祭礼や年中行事などの伝統文化
③道標や絵馬、石造品などの地域文化財などについて、地域に密着した情報提供をお願いします。

以前から本欄でお知らせしているように、江戸時代以降の歴史を描くのに必要な古文書調査は、区有のものについては進んでいます。地域的な偏りがあり、社寺や個人が所有される史料については、まだそのスタートラインにたつばかりです。

過去に出された市史や町史では、本が出版されてから、

市史の小径

第9回

市史編さん
協力員さん決まる

「ここにもこんな史料があったのに」という話が出て、残念な思いをしたという事例を各地で聞きます。市史は長く活用できるものですので、なるべく活用できないことがないよう、今後協力員さんを通じて情報提供をお願いする場合がありますので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。



▲編さん協力員会議の様

【問い合わせ】総務課市史編纂係
☎ 86-8075 FAX 86-8380